



そうだ！商業高校に行こう！

広島県教育委員会教育長 平川 理恵

1. 商業高校、もったいない…

広島県には広島商業高校、呉商業高校、尾道商業高校、福山商業高校の4つの県立商業高校がある。歴史と伝統を誇る学校もあれば、様々な背景のある生徒が多く通っている学校もある。

平成30（2018）年4月に広島県の教育長に就任した初年にすべての県立高校を訪問した。そこで感じたことは、「商業高校、もったいない（涙）」であった。

元来、商業は大変ダイナミックで面白いもの。私自身、20代はリクルートで営業職、30代は起業して会社を経営していただけない、ビジネスとは「生きる」そのもので、身震いするくらい楽しいものであると思っている。

しかし、実際の商業高校の授業で目にしたのは、そろばんや電卓の演習。いつの時代か？とびっくりした。マーケティングや国際ビジネスの授業も、実ビジネスとは程遠い。もっとエキサイティングな授業ができるはずだと感じた。

そこで何人かの先生方とお話ししてみたところ、自分たちも問題意識を感じているというではないか。例えば、資格取得といっても、資格が本当に魔法の杖にはなっていないことも自覚されていた。必要な資格の取得のために頑張る姿勢や態度は良いと思う。しかし、とりえず資格を取得しておけば良いことになってはないか。資格取得が目的化してしまっていないだろうか。

なんとかしたい！ということで、ビジネスの聖地（世界経済を引っ張っているという意味で）ともいえるアメリカに行き、アメリカの高校生はどのように商業（ビジネス）を学んでいるのかを皆で一緒に観て、感じ、何か広島県に取り入れられるものがあ

れば…と令和2（2020）年1月に、4つの商業高校の先生たちと、広島県教育委員会高校教育指導課と私とで、アメリカへ視察に行くことにした。今思えば、コロナ禍前のぎりぎりのタイミングであった。

2. 先生たちとアメリカのビジネスハイスクール視察

アメリカ現地滞在実質3日間と短期間であったが、アメリカのロサンゼルスに旅立ち、3校を視察した。PBL（プロジェクト型学習）で有名で、映画『Most Likely to Succeed』の舞台にもなったハイテックハイ高校では、一斉授業ではなく、先生たちが焚きつけたエッセンシャル・クエスチョン（本質的な問い）に対して、生徒たちがどのように立ち向かっているのか、PBLの作り方について学んだ。学校を案内してくれたのも生徒たちだったが、自分たちの学びに対して堂々と説明する姿に心を奪われた。

次に、経済的に厳しい家庭の生徒が多く来る公立学校であるパラマウント高校を訪れた。数年前までは大変荒れていた学校と聞くが、生徒たちが今まさに起こっているビジネスを題材に生き生きと学んでいる姿があった。すごい色の髪に染めている生徒や、タトゥーが入っている生徒に驚く先生もいたが、一方で「こういう様々な背景を背負った子たちに、燃えるような授業をしているアメリカの先生たちがすごい！授業の内容も、インスタグラムを使ったコカ・コーラのキャンペーンを考察して、自分なりのマーケティングを考えたりしていて、これは面白い！生徒もこんな面白い授業であれば、火が点くわけだ！」と唸る先生もいた。また、「もう生徒指導だけの時代じゃないですよ。帰国したら、こうしろああしろと決まりを守らせるだけの指導はやめます。」と反省する先生もいた。

3校目は、実社会で役に立つスキルを身に付けるエルモデーナ公立高校。ここは移民の子供が多く通う学校で、中には発達障害や学習障害を持つ生徒もいる。コンピュータ関連、ホテルやレストラン調理、医療アシスタント、建設業界など、今後この地域において雇用ニーズの高い職業に関係するスキルを養う学校であった。ここでも実学にのめりこむ生徒たちの姿があった。

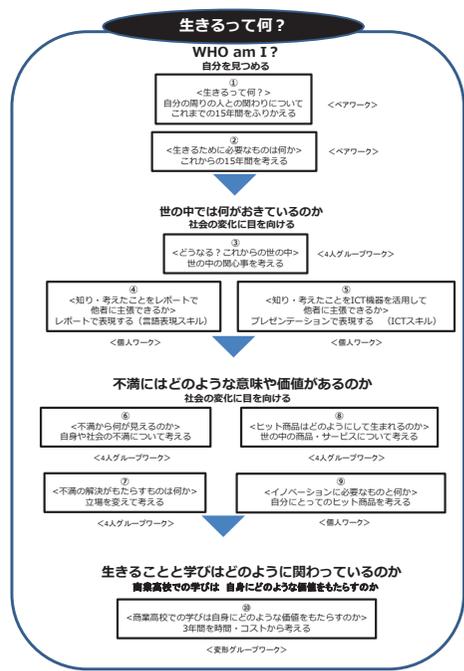
実は今回の訪米視察は、視察だけではなく、視察をして先生たちが感じ取ったものを核（コア）にして、広島県の商業教育の今後のカリキュラムを作って持って帰るといところまで狙っていた。視察後に皆でミーティングをするために、ホテルではなくAirbnb（エアビーアンドビー）で民泊することにした。女子部屋1つ（私もここに先生たちと一緒に寝泊まりした）、男子部屋2つにキッチンとリビングがある一軒家を借りた。時間があったので、スーパーで食材を買い込み、私が台所に立っている間、先生たちがカリキュラムを作る話し合いをするという具合だ。話し合いは夜な夜な行われた。



3. 「生きるって何？」を問う授業づくり

先生たちが話し合った結果、今回のカリキュラム（ビジネス探究プログラム）を貫く本質的な問いは「生きるって、何？」となった。「いやー。難しすぎるんじゃないですか？」と異を唱える先生たちもいたが、アメリカの子たちにできて日本の子たちにできないわけない！と思いついてこの質問を生徒たちと先生たちが協働で考えていくことにした。

話し合いの結果、今回、ビジネス探究と情報の時間1週間に4コマ使い、毎週PBLの授業を組む構



▲ビジネス探究プログラム 概要

単元計画（エッセンシャル・タエスチオン（本質的問い）「生きるって何？」）

単元名	単元目標	学習のねらい（知識・技能）	授業のねらい（知識・技能）	学習活動（各4時間）	評価の観点				評価方法	学習指導要領との関連 (A) ビジネス基礎 (B) 情報教育
					思考力	判断力	表現力	協働力		
1 「WHO am I?」 自分を見つめる。	100分	100分	100分	① イントロダクション ② 自己紹介 ③ 自己紹介 ④ 自己紹介	◎	○	○	○	◎	10000P 10000P
		100分	100分	⑤ 自己紹介 ⑥ 自己紹介 ⑦ 自己紹介	◎	○	○	○	◎	10000P 10000P
		100分	100分	⑧ 自己紹介 ⑨ 自己紹介 ⑩ 自己紹介	◎	○	○	○	◎	10000P 10000P
2 「世の中では何が起きているのか？」 世の中の変化に目を向ける。	100分	100分	100分	⑪ イントロダクション ⑫ 自己紹介 ⑬ 自己紹介	◎	○	○	○	◎	10000P 10000P
		100分	100分	⑭ 自己紹介 ⑮ 自己紹介 ⑯ 自己紹介	◎	○	○	○	◎	10000P 10000P
		100分	100分	⑰ 自己紹介 ⑱ 自己紹介 ⑲ 自己紹介	◎	○	○	○	◎	10000P 10000P
3 「生きることと学びはどのように関わっているのか？」 商業高校での学びは、自分にどのような価値をもたらすのか？	100分	100分	100分	⑳ イントロダクション ㉑ 自己紹介 ㉒ 自己紹介	◎	○	○	○	◎	10000P 10000P
		100分	100分	㉓ 自己紹介 ㉔ 自己紹介 ㉕ 自己紹介	◎	○	○	○	◎	10000P 10000P
		100分	100分	㉖ 自己紹介 ㉗ 自己紹介 ㉘ 自己紹介	◎	○	○	○	◎	10000P 10000P

▲1学期分のカリキュラム（単元計画(1)）

単元名	単元目標	学習のねらい（知識・技能）	授業のねらい（知識・技能）	学習活動（各4時間）	評価の観点				評価方法	学習指導要領との関連 (A) ビジネス基礎 (B) 情報教育
					思考力	判断力	表現力	協働力		
1 「世の中にはどのような価値があるのか？」 世の中の変化に目を向ける。	100分	100分	100分	① イントロダクション ② 自己紹介 ③ 自己紹介	◎	○	○	○	◎	10000P 10000P
		100分	100分	④ 自己紹介 ⑤ 自己紹介 ⑥ 自己紹介	◎	○	○	○	◎	10000P 10000P
		100分	100分	⑦ 自己紹介 ⑧ 自己紹介 ⑨ 自己紹介	◎	○	○	○	◎	10000P 10000P
2 「生きることと学びはどのように関わっているのか？」 商業高校での学びは、自分にどのような価値をもたらすのか？	100分	100分	100分	⑩ イントロダクション ⑪ 自己紹介 ⑫ 自己紹介	◎	○	○	○	◎	10000P 10000P
		100分	100分	⑬ 自己紹介 ⑭ 自己紹介 ⑮ 自己紹介	◎	○	○	○	◎	10000P 10000P
		100分	100分	⑯ 自己紹介 ⑰ 自己紹介 ⑱ 自己紹介	◎	○	○	○	◎	10000P 10000P

▲1学期分のカリキュラム（単元計画(2)）

上記資料はこちら
もしくは小社Webページへ



想を得た。まずはこの視察をもって2月と3月に同年4月から7月の1学期分40時間分のカリキュラムを作る。その状況を観ながら、夏休みに2学期からのカリキュラムを作ろうというところまで話す。10個の小単元を4つの商業高校で分担して作っていく。カリキュラムコーディネーターは株式会社キャリアリンクの若江真紀社長にお願いした。

帰りの飛行機でも話が盛り上がった。日本に到着したときには皆で円陣を組んで「頑張るぞ！おー！」と、羽田空港で広島行の飛行機を待つ間、掛け声もかけた。

しかし、先生たちから「僕らは今回こんなに盛り上がってますけど、他の先生たちが賛成してくれるか…」と不安の声が上がった。そこで、我々が帰国した翌日の朝8時半に商業高校4校の校長先生に教育長室に来てもらい、今回のカリキュラムを実行したいと説明。そしてその翌日から4校の朝の職員打ち合わせに出席させていただき、私から、主旨をお話した。

『「そうだ！商業高校に行こう！」と他の選択肢を蹴ってでも、どうしても商業高校に行きたい！となるような、そんな商業高校にアップデートしませんか？正直、広島県教育委員会はかけています！平成27年度から、授業を変えようと「学びの変革」をやってきましたが、令和2年度のこの商業高校アップデート元年のカリキュラムにかけています！しかも、これは商業の先生だけではありません、すべての教科の先生方のご協力が必要です。どうか、どうかよろしく願いいたします！」と私からも直接お願いした。

4. 最初は何も書けなかった生徒が、4時間後には…

1学期の最初の授業。すべての商業高校1年生の生徒たちが「生きるって、何？」という「問い」に挑んだ。15年間生きてきて、どんな人と出会って、どんな関わりがあって、そこに自分としてどんな思いがあったのか？を振り返りながらチームで話し合っていく。

最初の授業の1時間目は、生徒たちは何も書けなかった。書いたとしても、「つまらない人生だった」と一行だけ。「どうしてここ、気持ちが下がっ

たの？」「え？親が離婚した。」「大変じゃったのお。ほいじゃ、ここは何で上がったん？」「え？ばあちゃんが面倒みてくれた。私、ばあちゃんおらんかったら生きていけんかったんよ。」「そうか、そうか。いろんな人に世話になったんじゃのお。」「うん、いろんな人に支えられてここにいるんよ。ん？そう考えたら、私の人生まんざらでもないんと違う？」

こうして、今までの人生をじっくり振り返ったり、チームのメンバーの話の聞いたりして、1行も書けなかった生徒も2～3時間後には何行も何行もどんどん書き始める。しかも「え？もう4時間目？授業終わりなの？」と時間を忘れて授業に没頭している様子がわかる。一番驚いたのは先生たちだった。「にわかには信じがたい」と。

1回目の授業が終わるか終わらないかの4月16日から、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、すべての県立学校を臨時休業にせざるを得なくなった。しかし私たちは学びを止めなかった。県教育委員会で県立学校のPCを持っていない生徒、Wi-Fiを持っていない生徒すべてに機器の貸し出しをした。ビジネス探究プログラムも、毎週4時間、学びを止めずに授業を行った。

結果、臨時休業後も今の1年生は全然目つきが違う。他教科も含めて学びに対して貪欲である。また、一番良いのは学活(HR)の時間だ。クラスの雰囲気すごく良いのだ。それはそうだと思う。自分の今までの人生、つらかったことも楽しかったことも、クラスの担任が、クラスの友人たちが、知ってくれているのだ。この安心感はとても良い。クラスの中で「何を話してもいいんだ」「間違っても発言しちゃってもいいんだ」という信頼関係がある。

5. ファシリテーションに必要な、先生に求められる「深い理解」

夏休みに先生方はまた集まり、2学期以降のカリキュラムを作った。

2学期に入って学校に授業の様子を観に行っただが、気づいたことがある。授業では、「人はなぜ働くのか？」など、古典的なトピックスもあれば、「AIとは何か？」など最新の知識・知見が必要なトピックスも扱っているの、先生の間で差が出てき

てしまっているということだ。しかし、これはある程度仕方ないことだと思う。今までとは全く異なる考え方や方法で試行錯誤も起こるだろう。

クラスに信頼関係があるので「ノリ」はよいのだが、扱うトピックスについて、「先生自身が探究できているか否か」によってファシリテーションにかなり差が出る。生徒たちは、はじめは探究心旺盛でどんどんノッてくるが、最終的に知的好奇心が満たされないとつまらなくなるのだ。探究心をドライブし続けるためには、先生のファシリテーションが重要なのだ。そのためには、トピックスに対する先生たちの深い理解が重要なのだということもわかった。

対策として、私から校長先生と教頭先生に「小単元の前に、お二人で先生たちを質問攻めしてください。AIってなに？ AIにできて人間にできないことって何？ AIで何が変わるの？ AIの定義って何？ っていう風に。正解不正解はないのですが、こういった質問に先生自身が答えられないとしたら、決して深い授業はできないと思うのですよ。」とお願いした。

フェーズ2 社会の仕組みを知る(人)	W1	人はなぜ働くのか？
	W2	対価の価値は何か？
	W3	なぜ新たなビジネスが生まれるのか？
	W4	自分を理解し、自分を管理する。
	W5	社会活動を円滑に行ううえで大切なことは何か？
フェーズ3 モノやサービスについて知る	W1	私たちは社会にどのような変化を生み出したのか？
	W2	マーケティングとは何か？
	W3	マーケティング戦略にどのような手法があるか？
	W4	マーケティング戦略でどのような変化がもたらされているか？
	W5	マーケティングで社会はどう変わるのか？
フェーズ4 お金について知る	W1	お金の価値って何だろう？
	W2	自分の人生とお金の関わりについて考えてみよう。
	W3	お金の活かし方のいろいろ【貯める・つりかかす】
	W4	お金はどこからくるのか 広島県(国)の実情から知る【税と社会保障】
	W5	自分にとってのお金とは
フェーズ5 情報について知る	W1	情報の価値とは何か？
	W2	情報化により生活はどう変わるのか？
	W3	情報化により働き方はどう変わるのか？
	W4	情報化により、社会はどう変わるか？
フェーズ6 経済について知る	W1	産業は何によって支えられているのか？
	W2	経済は私たちの生活とどのように関わっているのか？
	W3	経済の変化は私たちに何をたらすのか？
	W4	世界はどうつながっているのか？
	W5	2030年にSDGsが達成できないと世の中はどうなるのか？

▲ 2 学期以降のカリキュラム一覧

上記資料はこちら ▶
もしくは小社 Web ページへ



に、工業や農業も探究の授業のアップデートをした。いくら良い工業製品や、農産物を作れても、「売れなきゃダメ」だからである。

そういう意味では、商業のスキルはどの世界にも通じる。総合学科の「産業社会と人間」も、Society5.0にアップデートしないとイケない。そして、一番手を入れなければならないのは普通高校の「総合的な探究の時間」である。どこかの学科で開発したコンテンツは、別の学科でも汎用性があるので、だれもが活用できるようにライブラリー化する予定だ。

今、県内の先生たちの商業高校に対する視線が熱い。商業高校の生徒たちが、商業高校の先生たちが、メチャメチャ変容した姿を覗いて、「うちも変えたい！」と。どうやったらできるのかを教えてもらいに4校の商業高校に授業を視察したり、カリキュラムの作り方を聞きに行ったりしている。

先生たちに火が点けば、生徒は必ず応える形で、燃える。広島県の「学びの変革」が実現できる日も近い。そして、そのはじめは「商業教育のアップデート」から、なのである。



広島県教育委員会広報紙「くりっぶ」73号

6. 商業の次は、工業、農業…

今後、商業で行ったこのアップデートの内容を基

詳しくはこちらを ▶
ご覧ください

